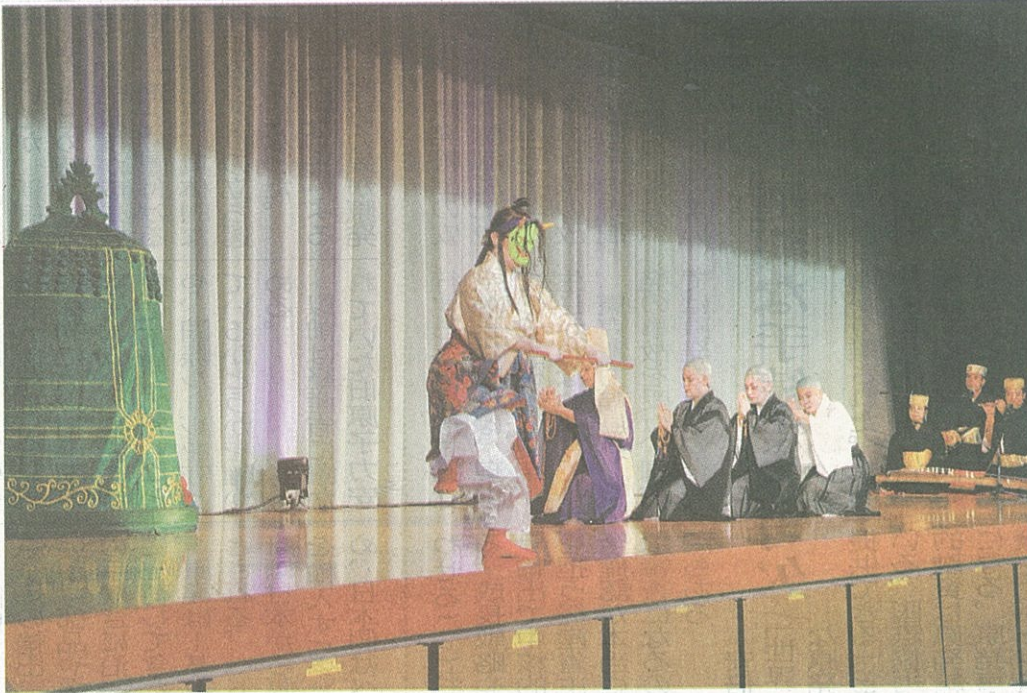


2013年(平成25年)10月13日 日曜日

「ファンサミット」が開幕

文化観光シンポで提言

奄 美 市



会場を沖縄伝統芸能の世界に引き込んだ組踊「執心鐘入」＝12日、奄美体験交流館

奄美群島
美復 60年

奄美群島の日本復帰60周年記念イベント「奄美ファンサミット」(同実行委員会主催)が12日、

奄美市で開幕した。13日までサミットと関連イベントもめじろ押し。初日は「琉球弧文化観光シンポジウム」があり、文化を生かした観光振興について提言し、奄美と沖縄、鹿児島が伝統芸能で交流した。(8、9面に関連記事)

琉球弧の伝統芸能も

文化観光シンポジウム 津波高志・琉球大学名誉教授、開梨香氏(株)カルティベート社長)が登壇した。小川氏は八月踊り・六調を取り上げ、「八月踊りは祈りと仕事、遊びの要素があり、踊

るだけ、歌うだけの人はいない。六調は鹿児島、熊本から入ってきた唄が源流だが、今や奄美が本場。新しいものをつくり上げるぐらに価値を高めてほしい」とラドバイスした。津波氏は首里城が観光資源として定着したことにも言及、「首里城は年間400万人以上が訪れる。文化はカネになる。名瀬には仮屋(代官屋敷)跡がある。江戸時代のオフィス街を再現するぐらいの大規模な考えをもった方がいい」と提案した。開氏は西表島のエコツアーリズムを紹介した。2部は郷土芸能交流。6団体・個人が出演した。鹿児島側は末吉鬼神太鼓が迫力満点の和太鼓を披露。沖縄側は光尋塾(島袋光尋氏主宰)が組踊「執心鐘入」を演じ、那覇太鼓は創作エイサーで会場を沸かせた。奄美側はオープニングに伊津部小学校さざ波バンドが登場。前山真悟さんが島唄、川内集落(奄美市住用町)が八月踊

りを披露し、来場者も加わって六調で締めくくった。13日はサミット分科会と全体会、交流会がある。